

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における中道小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （1）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （3）各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・中道小学校では、5年生 26名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立中道小

学校

児童数

26名

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.47	21.06	28.33	42.07	53.07	9.14	151.87	20.73	53.40
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	13.73	19.82	35.73	43.55	43.82	9.83	135.55	12.18	54.27
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

男子は、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、体力合計点で大阪市・全国平均を上回り、ソフトボール投げで大阪市平均を上回った。握力と長座体前屈は、大阪市・全国平均を下回った。

女子は、上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、体力合計点で、大阪市・全国平均を上回った。50m走は、大阪市平均に並んだ。握力、長座体前屈、立ち幅跳び、ソフトボール投げは、大阪市・全国平均を下回った。

「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的な回答は、男子86.7%、女子90.9%であり、女子は肯定的な回答の割合が多いが、男子は市・全国平均と比べて肯定的な回答の割合が若干少ない。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子が7.1%、女子は0%と男子・女子とも市・全国平均と比べて少ない。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校は、昨年度までの2年間、体育科を研究教科とし、「『主体的に学習に取り組む態度』の育成を図る」を研究目標として研究を深めてきた。その成果として、学校アンケート「運動をしたり、体を動かす遊びをしたりすることは好きですか」の対する肯定的な回答は92%と高い。全国調査で「体育の授業は好き」と肯定的に答える児童の割合も高くなっている。特に女子は、「体育の授業では、進んで学習に参加していますか」「体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがありますか」に対する肯定的な回答は市・全国平均を大きく上回っている。

引き続き、すべての児童が楽しんで運動やスポーツをすることができるように、体育の授業内容を工夫・改善していくとともに、体力テストで課題として残った種目については、授業等で取り組んでいく。また、今年度も3学期に「大なわチャレンジ週間」を実施した。来年度も児童が楽しみながら体力を伸ばす機会を作っていきたい。